

Title	これからの歯科医学教育と歯科医療提供体制
Author(s)	平田, 創一郎
Journal	歯科学報, 115(3): 268-268
URL	http://hdl.handle.net/10130/3667
Right	

特別講演 3

これからの歯科医学教育と歯科医療提供体制

東京歯科大学社会歯科学講座教授 平田創一郎

歯科医師過剰と言われて久しい。その真偽はともかくとして、平成18年には歯科医師養成数の削減のため、歯科医師国家試験の合格基準を引き上げる旨の文部科学、厚生労働両大臣の確認書が交わされた。そのため、歯科大学では認知領域（知識）偏重の歯科医学教育を余儀なくされている。

一方で、臨床能力の習得のため、厚生労働省は歯科医師臨床研修制度を必修化し、文部科学省は診療参加型臨床実習の充実をうたっている。しかしながら、臨床実習に患者からの協力が得にくくなっているのは、昨日今日の話ではない。代替手段としてシミュレーション実習が求められているが、本来は臨床実習前にシミュレーション実習を通じて精神運動領域（技能）・情意領域（態度）を習得し、その上で臨床実習を行うべきと考える。また近年では、まさに情意領域であるプロフェッショナルリズム教育も喫緊の課題となっている。

社会歯科学講座では、歯科医学教育開発センターや他の講座との協同により、コミュニケーション学や臨床倫理の検討を通じて、情意領域の教育に取り組んでいる。歯科医学教育に賛同して協力してくれる一般市民である Patient Community (P-Com) メンバーからのフィードバックを導入し、一定の成果が期待されている。更なる発展のため、360度評価の導入準備も進めているところである。

さて、わが国における歯科医師の地域分布は現状、市町村単位で見ても極めて均等化されている。一方で研修歯科医の6割が、19都道府県にしかない歯科大学・大学歯学部附属病院で臨床研修を行っており、臨床研修修了者の多くは臨床研修施設の近くに就職する傾向にある。歯科医師国家試験合格者数の減少は、研修歯科医と若い歯科医師の地域偏在を拡大するおそれがある。近い将来、団塊の世代の歯科医師が大量にリタイアする一方、高齢化した患者の増加は自明である。特に地方において歯科医師不足が生じる可能性は否定できない。高齢者の保健・医療・介護における歯科の役割の重要性は、今更述べるまでもないだろう。在宅歯科診療や内科疾患を持つ高齢の患者に、現在大多数を占める1人診療所での対応が困難であることも示されている。地域包括ケアシステムにおける歯科医療提供体制のあり方を考えながら、歯科診療所の機能分化と次元医療の構築といった方略を視野に入れた社会歯科学教育が必要と考える。

《プロフィール》



＜略歴＞

平成7年3月 大阪大学歯学部卒業
 平成11年3月 大阪大学大学院歯学研究科修了
 大阪大学博士（歯学）
 平成11年4月～平成14年3月
 大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部医員
 平成14年4月～平成18年3月
 厚生労働省医政局歯科保健課歯科医師臨

床研修専門官

総務課医療安全推進室・経済課 併任

平成18年4月 東京歯科大学社会歯科学研究室講師
 平成22年4月 東京歯科大学社会歯科学研究室准教授
 平成22年6月 東京歯科大学教務副部長（現職）
 平成25年4月 東京歯科大学社会歯科学研究室主任教授
 平成27年4月 東京歯科大学社会歯科学講座主任教授

＜所属学会等＞

日本公衆衛生学会
 日本歯科医学教育学会
 （一社）日本口腔衛生学会
 日本歯科医療管理学会
 日本歯科医学史学会
 （一社）日本老年歯科医学会
 （一社）日本環境感染学会
 社会歯科学研究会常任幹事